

今の公務員に求められているもの

皆さんの「公務員」のイメージは、どんなものでしょうか？

良いイメージから悪いイメージまで様々あるかと思いますが、世間一般的に言われるイメージは、ざっとこういったものではないでしょうか？

- 9時から17時でしっかり仕事が終わりに、残業が少ない。
- 収入が安定している。
- 窓口での対応が杓子定規である。
- 真面目にしっかりと仕事をする。
- 頭が固く、融通がきかない。

それでは、

私たち公務員は、一体どんな仕事をしているのでしょうか？

市役所の仕事といえば、住民票の発行や、国民年金の手続き、福祉の相談といった窓口での仕事が真っ先に浮かんだかもしれませんね。

もちろん市役所にとって、市民と直接関わる仕事は、大切な仕事の1つです。しかし、市役所には、表舞台にはあまり立たない、市民の生活を陰ながら支える、「裏方」の仕事がたくさんあります。

〔市役所の色々な仕事〕

- 24時間体制で、消防隊員や救急隊員が市民の安全を守っています。
- 毎日使用する安心・安全な水道水を提供しています。
- お手洗いも下水処理や維持管理を行っています。
- 普段よく通るその道路の補修整備や新しい道路を作っています。
- 家庭ごみの回収・処分や、ごみの減量化・適正処理の推進をしています。
- 地域の憩いの場である公園の清掃・管理や、緑化推進をしています。
- 学校施設の管理や、給食の献立作成・調理をしています。
- 中央図書館を含む5つの市内図書館の管理運営をしています。
- 店舗等の防火設備、避難経路の検査や防火活動を行っています。
- 健康相談や子育てに関する講演会等も行っています。

- 公立保育所・幼稚園の入所入園手続きや管理運営を行っています。
- 子育てや子どもに関する相談業務を行っています。
- 高齢者、介護が必要な人や障害者の福祉を行っています。
- 市民税や固定資産税などを適正に課税しています。
- 国政選挙から市の選挙まで幅広く管理執行を行っています。
- 成人式に関する調整・運営を行っています。
- 訪問販売等のトラブル相談や法律相談を受け付けています。
- 街路灯の管理など、安全に暮らせるまちづくりをしています。
- 市に関する情報を分かりやすくお伝えするために、広報誌を発行しています。
- 台風等による警報時、防災担当が市役所で状況把握に努めています。

などなど

これは、まだほんの一例です。

そして、近年、少子高齢化や地方分権の本格的な到来などの社会情勢の変化に伴い、市民のニーズは高度化・複雑化・多様化しています。

今、市役所に求められているものは、何でしょうか？

- 災害時における迅速かつ確実な防災体制の確立
- 虐待児童やDV被害者へのケアや再発防止に向けての早急な対応
- 生活困窮者に対するきめ細やかなセーフティネットの充実
- 高齢者や障害者が不自由なく暮らせる安心な社会づくり
- 保育所や学童保育室に預けられない待機児童の解消
- 教育の質を高め、子どもも大人も学べる環境の整備
- 地域経済の活性化や観光ブランド力の底上げ

などなど

こうした多種多様なニーズに的確かつ柔軟に対応し、豊かさと活力を実感できる地域社会を築き上げていくため、地域における総合的な行政を担う立場として、その果たすべき役割はますます重要となってきています。

その重大な役割を担う、茨木市が求める職員像はどういったものでしょうか？



茨木市が求める職員像

茨木市人材育成
イメージモデル

「ほっとさん」



市民目線 ～市民とともに、ほっとな気持ちで～

「常に市民の目線に立ち、市民から信頼される職員」

職員は、「全体の奉仕者」として高い倫理観と使命感を持ち、市民の声に耳を傾け、誠実かつ公正に業務を行い、市民にとって、丁寧でわかりやすい行政運営に努めることが重要です。

ほっと(Hot)な気持ちで、活気あふれるまちづくりを市民といっしょに担い、市民からほっと安心され、信頼される職員をめざします。

「もっとさん」



チャレンジカ ～もっと果敢に挑戦～

「新たな課題への挑戦を恐れず、
自分を変革できる自律した職員」

職員には、現状に甘んじることなく、常に問題意識を持ち、課題の解決に向けて積極的に努力する姿勢が求められます。

本市の魅力をさらに高めるため、新たな課題にもっと果敢に挑戦して、仕事や自分を変革することで、より一層成長できる自律した職員をめざします。

「ずっとさん」



マネジメントカ ～将来をずっと支える力を～

「政策形成能力や経営感覚などを備え、
目標を達成できる職員」

職員は、行政運営のプロとして、経営感覚やコスト意識を身につけ、ずっと先を見据えた持続可能なまちづくりを市民とともにめざし、支えていく必要があります。

積極的に知識や技術の習得に励み、自ら目標を立て達成できる高い政策形成能力・法務能力等を身につけ、将来にわたって、いつまでも住み続けられるまちを創造できる職員をめざします。

時代とともに、求められる職員像は変わりました

一昔前の市町村は、国の下部機関として国から事務を委任され、「国の出先機関」としての仕事をたくさんしなければなりませんでした。

しかし、経済高度成長の時代を終えて、国・地方は厳しい財政事情により大きな負債を抱えてしまい、従来の仕組みでは、少子高齢化などの社会情勢の変化に的確に対応することが困難となりました。

そこで、地域の多種多様な価値観・個性に根ざした、住民本位の分権型社会へと抜本的な転換をはからなければならず、平成12年(2000年)に「地方分権一括法」が施行されたことを契機に、国と地方の関係は上下関係から対等の関係に変わり、国から地方自治体に様々な事務・権限が移譲され、

地方自治体は、自らの判断と責任により、地域の実情に沿った行政を展開していくことができる時代になりました。

それによって、市町村は、厳しい財政状況や地域経済の状況などを背景に、効率的な行財政システムを構築し、公共サービスの質の維持向上に努めるなど、住民との対話の中で、自主的に「地域にふさわしい行財政改革」に取り組むことが欠かせません。

つまり、地域にふさわしい行政とは何かを考え、企画立案～展開のできる職員が必要になってきており、「上司から言われたことだけすればいい」、「お役所仕事と言われても、杓子定規的にするしかない」というような考えでは、これからの時代は通用しません。

だからこそ、茨木市の未来の担い手として、

- 常に市民の目線に立ち、市民から信頼される職員
- 新たな課題への挑戦を恐れず、自分を変革できる自律した職員
- 政策形成能力や経営感覚などを備え、目標を達成できる職員

が、今必要とされています。